第５章　2050年に目指す脱炭素社会

詳しい内容はこちら

Chapter 5

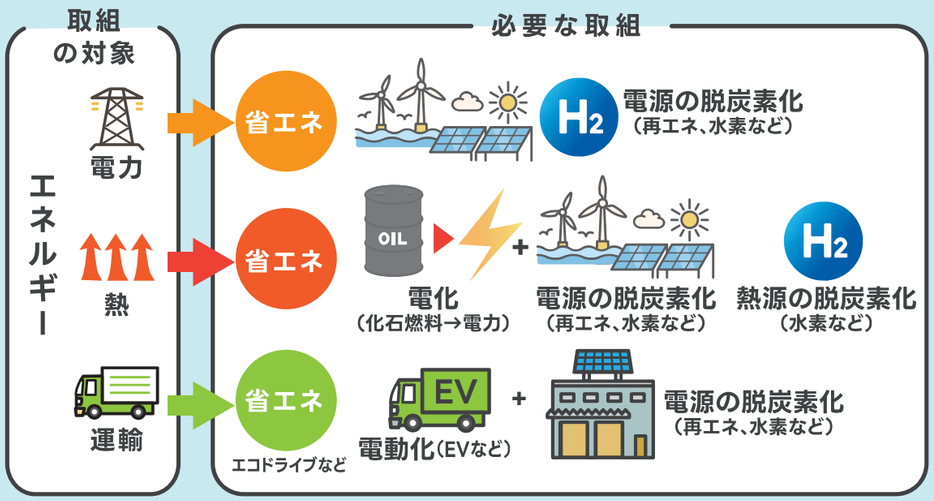
１．2050年の脱炭素社会（ゼロカーボンシティ）に向けた取組の方向性

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量をゼロにするためには、家庭や学校、運輸、事業所など、日常生活や産業といった社会経済活動のあらゆる場面での脱炭素化が必要です。

現在の人間の活動は、使用する（燃やすなど）ことで多くのCO_2を排出する石油や石炭、天然ガスといった化石燃料の利用に重点が置かれていますが、そういった化石燃料に依存する現在の状況を、温室効果ガスを排出しない方法に変えていく必要があります。

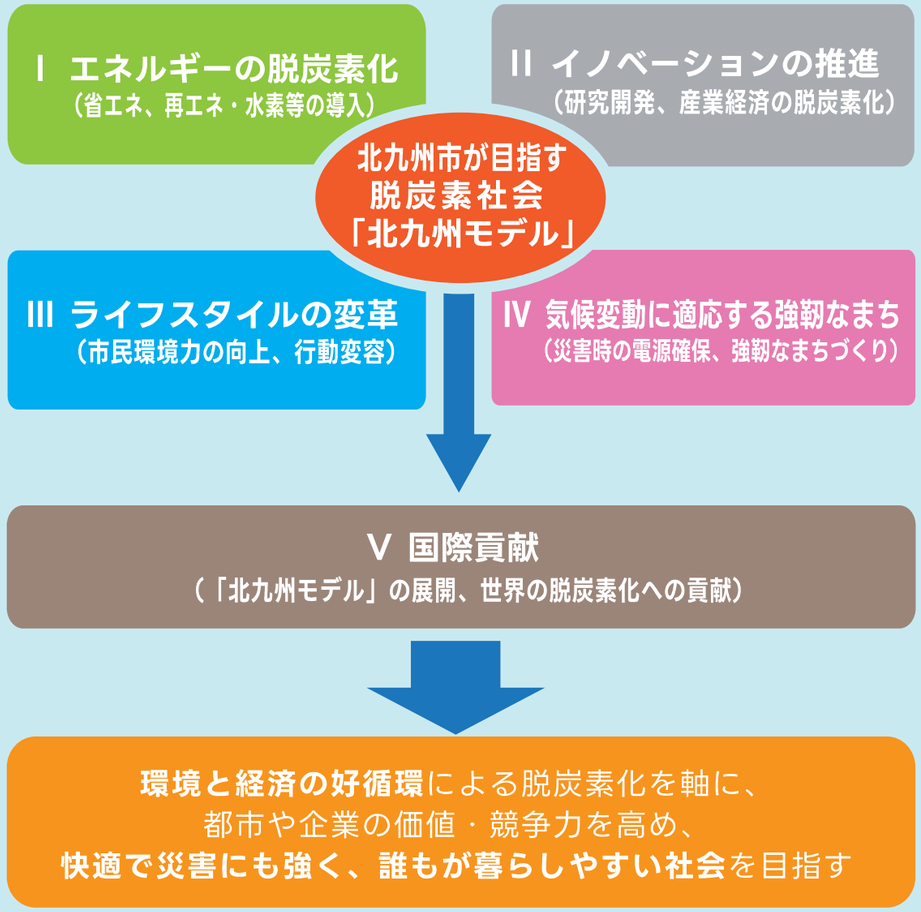
そのため、あらゆる分野で必要な電気・熱などのエネルギーや、車やバス・トラックなどの人間やモノが移動する際に発生するCO_2を削減するために、次に示すような方向性で取り組みます。

まずは①**「徹底した省エネ」**に取り組むとともに、②**「電力部門の脱炭素化」**（発電に使用するエネルギーに再エネ等を使うこと）と**「非電力部門の電化」**（これまで化石燃料を使っていたものを電気で動かすこと）を進めつつ、③鉄鋼・化学などの高温の熱を必要とするものなど、電化が困難な分野においては**「水素等（アンモニア、合成メタン、合成燃料等を含む）の供給・利活用」**を推進する



２．北九州市が目指す2050年の脱炭素社会（ゼロカーボンシティ）

脱炭素化することが、社会経済活動を縮小したり生活が不便となったりするのではなく、**「社会をアップデートし、生活の質を向上することにつながる」**という認識と方向性を社会全体で共有するとともに、下記「Ⅰ～Ⅳ」を同時実現する**北九州モデル**を構築し、国外にも展開することで「Ⅴ国際貢献」するという方向性で、2050年の脱炭素社会を目指すこととします。



2050年の北九州市 ゼロカーボンシティのイメージ

みんなでつくる、未来につなぐまち。脱炭素で、もっと快適に、もっと豊かに。

用語解説はこちら

産業

水素の供給・利活用
工業や発電・モビリティで水素を利用

バイオマス発電・メタネーション
再エネと組み合わせてCO_2を資源として有効活用

CO_2の回収・利活用
CO_2を分離・回収し再利用

運輸

公共交通の充実
BRTや鉄道で、快適に移動

EV・FCVの普及
水素や電気で走る車・バスが主役に

MaaSで移動が便利に
スマホで、検索・予約・決済まで一括

グリーンスローモビリティ
徒歩・自転車・小型モビリティで近くへの移動も快適に

業務

ZEB(ゼブ)の普及
省エネと創エネで快適・高効率なオフィスに

デジタル活用・テレワーク
働き方を変え、エネルギーも削減

サーキュラーエコノミー
シェアリング・リユースで資源をムダなく活用

家庭

ZEH(ゼッチ)住宅の普及
高断熱・省エネで快適な暮らし

太陽光発電・蓄電池
停電時も電気が使える安心を

省エネ家電・HEMS
エネルギーを賢く使い、光熱費もおトクに

再生可能エネルギーを最大限活用し、電力の脱炭素化を実現



エネルギーの脱炭素化

ごみの減量・資源循環



3R(リデュース・リユース・リサイクル)で循環型社会へ

防災・減災の強化



気候変動に備え、命と暮らしを守る

健康で快適な暮らし



歩く・自転車・運動で心も体も元気に

ライフスタイルの変革・気候変動への適応

北九州市域内の温室効果ガス排出の実質ゼロ(ネット・ゼロ)を目指す

エネルギーの脱炭素化

イノベーションの推進

ライフスタイルの変革

気候変動への適応

世界の脱炭素化に貢献

目指す姿(2050年)～ゼロカーボンシティ～